

同窓会報

No.80

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

〒510-8027
四日市市茂福65
TEL<059>365-3631

印刷
(株)東海フォトデザインシステム



VUCAの時代

同窓会第五代会長 伊藤 勘作
(四高35年度卒)

コロナはいよいよ3年目を迎
え第8波と言われていますが、
そろそろ英国を見習ってマスク
着用は自由にしてもらいたいも
のです。

また21世紀とも思えぬプーチ
ンロシアの不当なウクライナ侵
攻は一年余となりましたが、未
だ話合いの兆しは見られませ
ん。一日も早い終結を願うばか
りです。

ところで皆さんはVUCA
(ブーカ)という言葉をご存じ
ですか？

- Volatility (変動性)
- Uncertainty (不確実性)
- Complexity (複雑性)
- Ambiguity (曖昧性)

の頭文字をとってできた言葉
です。

今はVUCAの時代と言われ
ます。先の予測が出来ず、計画
通りにならない時代であるとい
う、現代の特徴を言い表す言葉
です。

つまり、以前はうまくいった
考え方が今は通用しない、或い
は近い将来通用しなくなる、そ
してその速度がとて早くなっ
ている。

これまででは、うまくいく考え
方を学び、それを繰り返し返せばよ
かったのですが、これからは、
考え方を学んでも、すぐそれが
通用しなくなる時代になってし
まった、ということではないで

しょうか。

人生百年時代と言われます。
寿命が延びて、大学卒業後凡そ
40年間働いて、更に40年間生き
ることになります。

私は今年1月31日に齢80を迎
えました。健康に一層留意し、
ゴルフを楽しみながら、時代が
求めるより長く有効な「考え方」
を改めて探求してまいりたいと
思っています。



着任ご挨拶

校長 諸岡 伸

皆さまには、ますますご清栄
のこととお慶び申し上げます。
ご挨拶が遅れましたが、今年度
校長に就任しました諸岡伸と申
します。昭和58年度本校卒、平
成13〜16年度本校勤務の、同窓
であり元教員です。同級生や前
同僚の皆さまからご覧になる
と、はなはだ力不足ではござい
ますが、同窓会の皆さまの
お力をお借りしながら、精一杯
努めてまいりますので、引き続
きのご指導をお願いいたします。

さて、家庭からの愛情や支援、学
校や社会から提供される教育環
境は格段に充実した一方で、何
らかの困難に当たったり、人間
関係がこじれたりすると、心折
れて傷つき、内向きになってし
まう生徒も増えたように感じま
す。

おおよそ20年ぶりに本校教職に
戻りましたが、最も感じるのは、
生徒の姿勢が非常に積極的、前
向きに変容したということであ
す。学習に対する主体的な姿や、
学校内外の様々な教育プログラ
ムに参加しようとする意欲には
感心させられます。伝統的に盛
んな部活動も、加入は自由であ
るにも関わらず、90%ほどの生
徒が参加し、熱心に活動してい
ます。少し気になる面もありま

かつてなく未来予測が困難な
VUCAの時代にあつて、この
ような生徒たちが将来、社会で
輝いて活躍できるには、知識の
基盤となる高い学力に加えて、
どのような困難にも明るく立ち
向かう前向きな姿勢と、多様な
仲間と協働しながら新しい価値
を創り出せる資質が必要です。
四日市高校では、国の指定事業
SSHの研究開発と、「自律し
た学習者への転換」を柱に、こ
れらの資質を育成していきたい
と考えています。加えて、学校
はこれまで以上に社会とつな
がって、社会で必要となる骨太さ
としなやかさを生徒に体得させ
る必要があります。今後は、同
窓の皆さまのお力添えをお願い
することも多くなるかと存じま
す。どうぞ、一層のご厚情、ご
支援を母校に賜りますようお願い
申し上げます。

嘘か真か、日本一、駅舎に近
いと評される四日市高校です。
同窓会の皆さまには、たまには
途中下車して四高の空気を懐か
しんでいただきたいと思います。ご
す。ぜひ校長室にもお寄りくだ
さい。



ロシアがウクライ
ナへ軍事侵攻を開
始して、ほぼ一年
がたつ。世界中が
コロナウイルスと
闘っているさなか
の出来事であり、
まさに衝撃であつた。このよう
な暴挙が、この現代の国際社会
において許されるのか、という
憤りは誰しも感じるところであ
るが、当のロシアの大統領は、
平然として悪びれるところがない
▼何よりも残念なのは、この
間、子供を含む民間人の死者が
七千人を超えていることである。
軍事施設のみならず、病院
や学校などがミサイル等の攻撃
を受けているからだ。これ以外
にもロシア軍による戦争犯罪的な
行為が数多く見つかつており、
いずれは弾劾されなければなら
ない。▼それにしても、なぜこ
のような事態に至つたのか。国
際連合を中心とする平和維持の
ためのしくみが欠けていると言
わざるを得ない。他国へ一方的
に軍隊を派遣した当のロシア
が、国連の常任理事国として、
今も居座っていることなど、ど
う考えてもおかしい。▼国際協
調によって、紛争を平和的に解
決する手段と枠組みを早急につ
くるべきだと考える。そうしな
いと日本を含む世界は果てしな
い軍拡競争に陥るにちがいな
い。この戦争が早期に終結する
こととともに、戦後の国際社会
の平和維持への取り組みに期待
したい▼ところで、コロナウイ
ルスの流行も第八波を迎えて、
ようやく終息しつつあるよう
だ。3月からは屋内においても
マスク着用は、個人の判断とな
るようである。6月の総会にお
いて、ティーパーティーが復活
できるようなら、うれしいのだ
が。

(青山)

令和5年度 総会のご案内

令和5年度総会を下記の通り開催いたしま
す。会員の皆様におかれましては、お誘い合
わせの上、多数ご参加くださいますようご案内
申し上げます。

○日時

令和5年6月3日(土)
13時30分受付/14時00分開会

○場所

四日市商工会議所 1階 ホール

○記念講演(総会后)

<講師>

市立四日市病院名誉院長
尚豊会みたき総合病院理事長兼院長

一宮 恵 氏

(四高42年度卒)

<演題>

「市立四日市病院の現状」

終了後

- ・記念撮影
- ・抽選会

○付記

- ・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いた
しました。会費納入にご協力下さい。
- ・講演につきましては一般に公開してありま
す。お知り合いでご興味のあります方には
ご案内下さい。

○問合せ

四日市高校同窓会館

TEL・FAX 059-365-3631

Eメール: sikoukai@m2.cty-net.ne.jp

四日市高等学校同窓会HP

shiko-kai.com



受付風景

6月4日(土)四日市商工会議所に於いて令和4年度総会が開催されました。58名の出席を得、藤原副会長の司会の下、まず伊藤会長より出席者に日頃の同窓会活動への協力のお礼と今後のさらなる協力の要請が述べられ、次いで諸岡校長からは現在の母校の教育活動の様子や成果と実績の報告をいただきました。

その後田中常任理事を議長に議事審議が進行、また青山副会長・佐久間会計から議事提案があり、審議されました。

続いて四高43年度卒林良嗣氏による記念講演を拝聴、記念撮影と進行しました。



総会あいさつ

議事

- 第1号議案
令和3年度事業報告
 - 第2号議案
令和3年度収支報告
 - 第3号議案
令和4年度事業計画
 - 第4号議案
令和4年度予算
- 以上について審議の後、承認されました。

記念講演

同級生の森克己氏のご紹介により登壇された林氏はローマクラブ正会員又本部執行役員で、世界を俯瞰なさるそのお立場から、西欧思想中心の危機を察知し、今後の日本の果たすべき役割についてご考察いただきました。そして今後、四高生が縮こまらずに世界へはばたくことへの期待を述べてくださいました。



林 良嗣氏



講演に聞き入る出席者



出席者記念撮影



出席者記念撮影

令和4年度 四日市高校同窓会総会報告

記念講演 林 良嗣氏（四高43年度卒）

『2022年、ローマクラブ・レポート
「成長の限界」50周年を読み解く
ー日本の危機に気づき、四高生こそ世界にはばたけー』

令和4年6月4日
四日市商工会議所

一般財団法人四高会 令和3年度 収支決算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

科目	摘要	決算額	予算額
I. 収入の部			
① 事業収入	会館使用料	56,200	50,000
② 受取寄付金収入	同窓会より	2,500,000	2,500,000
④ 雑収入	施設利用料、利息等	18,871	22,232
合計		2,575,071	2,572,232
II. 支出の部			
① 事業費・管理費支出		1,141,565	1,959,000
会議費支出	会議等	0	80,000
地元協力費支出	十四川の桜管理	50,000	50,000
消耗品費支出	コピー機・事務諸経費	39,417	100,000
修繕費支出	会館補修工事	60,000	500,000
光熱水料費支出	電気、水道、ガス	417,718	420,000
保険料支出	火災保険料	23,510	25,000
租税公課支出	固定資産税、県・市税等	425,600	500,000
清掃費支出	環境整備等	110,000	120,000
支払負担金支出	商工会議所会費	14,000	14,000
雑費支出	証明書発行手数料	1,320	150,000
② 投資活動支出		1,000,000	1,000,000
修繕引当資産取得支出	会館修繕目的	1,000,000	1,000,000
③ 予備費支出		0	100,000
合計		2,141,565	3,059,000
III. 当年度収支差額		433,506	△486,768
IV. 前年度繰越収支差額		917,768	917,768
V. 次年度繰越収支差額		1,351,274	431,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円

次年度繰越収支差額	1,351,274
-----------	-----------

修繕引当資産(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円

前年度末	0
今年度積立金	1,000,000
利子	0
今年度末	1,000,000

四日市高校同窓会 令和3年度 収支決算書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【収入の部】				決算額	予算額
① 同窓会収入				8,697,000	8,728,000
	入会金	全日制 1,800円×940人		1,692,000	1,728,000
	同窓会費	終身(20000) 347	6,940,000		
		10年(10000) 0			
		5年(5000) 1	5,000		
		3年(3000) 1	2,000		
		1年(1000) 58	58,000	7,005,000	7,000,000
② 雑収益		寄付金、利子・その他		176,928	8,569
③ 前期繰越金				1,683,431	1,683,431
合計				10,557,359	10,420,000
【支出の部】				決算額	予算額
① 運営費				1,231,399	1,500,000
	給料、手当			1,030,000	1,100,000
	印刷、消耗品・事務用品、諸経費			82,473	200,000
	電話、郵便、インターネット関連費			118,926	200,000
② 会議費				112,971	280,000
	総会費、総会景品代等			93,169	200,000
	理事会会費			15,230	70,000
	常任理事会会費、会議費			4,572	10,000
③ 事業費				1,948,515	2,400,000
	会報印刷及び発送費			1,192,965	1,200,000
	懸垂幕寄贈、激励金			755,550	1,200,000
	(一財)四高会への寄付金			2,500,000	2,500,000
④ 四高会拠出金				3,000,000	3,000,000
⑤ 積立金				0	150,000
⑥ 予備費				0	150,000
⑦ 次期繰越金				1,764,474	590,000
合計				10,557,359	10,420,000

百五銀行富田駅前支店普通預金 単位：円

次年度繰越金	1,764,474
令和3年度卒業生 同窓会費 預り金	5,602,000
今年度末	7,366,474

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金) 単位：円

前年度末	59,422,082
今年度積立金	3,000,000
利子	961
今年度末	62,423,043

令和4年度 役員及び常任理事

Table listing board members and officers for the 4th year of Reiwa 4. Includes roles like 会長 (President), 副会長 (Vice President), 顧問 (Advisor), 書記 (Secretary), 会計 (Accountant), and 監査 (Auditor) with names and school years.

☆印は新任

第14回 銀城親睦ゴルフ大会

四高同窓会第14回銀城親睦ゴルフ大会は令和4年11月10日(木)四日市カントリー倶楽部で開催されました。



男女優勝者と会長

なお、優勝者は左記の通りでしたが、お二人とも初参加とのことでした。
女子優勝者 星 珠樹さん(S55年度卒)
男子優勝者 四ツ谷昌彦さん(S37年度卒)

令和4年度会費納入者

(敬称略)

終身会費(2万円)

五十嵐美晶、石井綾人、石原佳奈、伊藤愛、伊藤菜々花、伊藤由衣、稲田亜純、内田悠斗、梅原悠渡、岡本優飛、加代紅怜葉、加藤彩希、川部容也、小谷日向、諏訪颯稀、高島彰一郎、田仲絃佳、知念春来、出口渥一、新納弘之、服部太陽、服部心奏、藤井はなり、藤井日南、水谷建心、水谷千夏、村出舞菜、山口亜香音、山路凜、米澤星柊、安藤菜乃、伊藤一樹、井上真実、宇佐美魁飛、内田千晴、大森悠加、大矢伊織、岡野舜平、小倉一朔、加藤颯真、菅野友乃、栗山玖也、小林さくら、小林海羽、佐藤舞、佐野愛莉、佐野友哉、辻花音、永野未来、長濱尚汰、中村友美、

会館だより

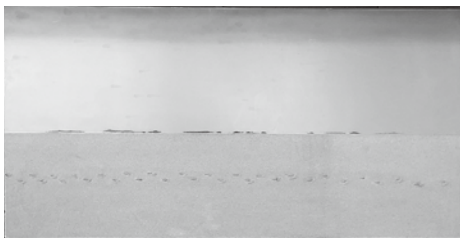


黒松秀志先生の作品



鈴木俊二先生の作品

西脇基夫様(四高26年度卒)より、母校富中教諭でいらした黒松秀志先生の作品2点を寄贈いただきました。
千種留美子様(四高60年度卒)より、鈴木俊二先生の作品1点を寄贈いただきました。
小林英俊様(新制四高初代校長福岡法重先生のお孫様)より、貴重な資料を多数贈呈いただきました。



西川尚輝、野里夏未、波田大和、平尾洋人、平田智貴、平野楓河、星野光輝、星野蒼太、増山絢子、松岡杏奈、水谷心、美濃柚花、森田瑚都、柳吉美里、柳瀬穂奈、山口華永、山本愛莉、横山由依、渥美輝、石井瑞咲、石原洋祐、大橋一心、河村咲良、坂倉彩月、椎久朝日、鈴木咲良、中島愛叶、久長祥子、赤星歩輝、石田大和、市川拓海、伊藤菜々佳、伊藤梨央、今村友翔、小川玲児、加藤海麗、儀賀凜夢人、久保浩誠、小芝創、小谷紗矢、田中七海、東條稜功、時津朱李、中島実希、中道諒、中山竜希、南谷俊介、西川琳、日沖莉理、藤田真生、別宮詩、前田未来、牧野優翔、水野開、三隅賢、安田惇平、赤坂心、伊藤早彩、伊藤眞廣、浦健人、永藤健吾、奥野圭、加藤優菜、金谷維新、川村優衣、神田瑞季、紀平萌香、楠理愛、隈元玲衣、小崎颯太、小林愛奈、阪田朱唯斗、里見聡太、佐原明日海、末谷克樹、竜田あかね、辻智充、永武伶都、南部聡葉、西川菜々子、野口真奈花、野田夢歩、野村琴音、萩原莉世、萩原凜、藤井風汰、細田侑嗣、増井日向、宮田真旭、宮原知佑、山口綾夏、山本萌、石川智就、磯谷史紀子、伊藤梨央、稲垣里依、内田陽介、浦陸人、太田礼、大西麻紀子、小瀧理子、加藤そら、河村柚衣、木田柊星、後藤春祐、近藤大喜、佐藤菜由、篠崎友汰、杉本雅弥、高嶋文哉、竹尾祐香、田中寛貴、爲西勇斗、辻岡太陽、中川真、西川佳希、西村董、橋本佳苗、早川昂希、原田彩花、山内菜央、山本紗生、池田みな、伊藤小和、伊藤星尚、今尾若菜、上川心誉、上村快澄、岡本桃佳、小川万翔、鹿執葵、川瀬優利、神田歩輝、藏田友太郎、近藤蓮、齋内大翔、佐々木喬哉、佐藤愛、佐藤大起、佐藤雄太、清水貴裕、清水菜摘、高橋諒多、田中愛菜、辻本健太郎、富久陽史、南谷涼介、西川侑李、樋口乃彩、平田結葉、平谷智史、見並永遠、茂木拓斗、森千奈都、柳川のの、山田航、山吉志麻、横山幸生、吉田春菜、吉田都里、綿谷佳音、浅川怜央、浅野卓希、石山凜空、市川昌暉、伊藤祥梧、今村希来、岩本紀乃、位田実理、片山透瑚、北尾奈美樹、北出歩夢、清山老颯、近藤日菜多、佐野慧誠、澤恒志、芝田暖七、高岡航太、竹村篤人、鏝本優希、鶴田開土、徳永百華、中村友理香、中山竜志、西田莉咲、橋本太一、針本美優、東愛子、前田龍之介、松野晃征、松本咲月、水谷有未花、三田村歩美、森田莉文、山口修生、山崎歩睦、山村修平、油田尊、池内しんり、伊藤崇悟、伊藤菜英、岡山楓、加藤里歩、神津美月、後藤悠希、小林希帆、駒田喬久、坂田創紀、佐藤恋菜、柴田朋花、友田江莉、中崎颯馬、永野宏武、服部朱美、玉方悠記子、福岡愛子、三上航世、宮地里佳、山下寛太、渡邊愛華、井坂渥也、岡本佳大、奥永航、佐伯心、坂本祥太郎、瀬古大介、高崎諄哉、西川陽登、布施快斗、稲垣良一、石井良樹、永戸吉朋、山田容子、日比義三、鳴戸理佐

○5年会費(5千円) 2名

○1年会費(千円) 46名

(令和5年1月末現在) 会員の皆様、誠にありがとうございました。

人物往来



90歳にして 第三の人生に挑む

味香 興郎

（四高25年度卒）

人生100年が当たり前の時代となりつつあります。私は昨年6月90歳（卒寿）を迎えましたが、第一、第二の人生を振り返りつつ、第三の人生への挑戦について述べます。

私は昭和26年（1951）3月本校を卒業、4月ガラスメーカーに就職し四日市工場に配属。昭和34年（1959）伊勢湾台風が襲来、保安要員として工場に残り、自然の猛威の前に人間の力が如何に小さいかという学びを得ました。昭和36年（1961）4月、名古屋支店に転勤、自動車用のガラス等特殊なガラスやガラス工事を扱う部門に配属。昭和39年（1964）の東京オリンピックを控えて、東海地方でも建設ラッシュ。中電本社ビル、中日ビル、日銀名古屋支店、興銀名古屋支店、三重県庁舎、岐阜県庁舎、長島温泉等々のガラス工事に関係しました。衰が終わって設計・建築工事業界は不況のどん底に落ち込み色々な問題が噴出。昭和46年（1971）子会社へ希望して出向したが、一年で会社閉鎖となり、47年（1972）東京支店へ転勤。一年後オイルショックが勃発。関係会社、特約店の多くが経営不振に。一つの不振会社の社長となり短期間に再生に成功。次々と不振会社の再生を命じられ、途中55歳で定年退職となり、その後は嘱託という扱いで、都合7社の社長を務め65歳で退社しました。以上が産業人としての46年間の第一の人生です。

平成9年（1997）4月、

中小企業診断士の資格を生かし、経営コンサルタント事務所を設立、独立を果たしました。翌年より、杉並区の商工相談員、東京商工会議所の評議員となり、地元杉並の小規模店、商店会等の経営支援、創業支援、商店街振興等に関わりました。仕事は杉並区外の都県にも広がり、再生支援協議会案件、民事再生案件にも関与しました。平成23年（2011）監査役として関与していたNPO法人の理事長を引き受けることとなり、NPOの領域に参入、東京都、杉並区等よりの業務を幅広く受託しました。

以上がコンサル・NPOとしての25年間の第2の人生です。令和3年に自家所有の住宅の一階（倉庫として賃貸）を教室に出来ないかという娘の一言に閃いて「街の居場所」にするべく耐震工事、防音工事を施した所、工費が意外に嵩むことが判明、急遽クラウドファンディングで支援を仰ぐこととし、募金目標200万円を超える40万円が集まりました。私の住む杉並区阿佐谷は地価が高く相続で土地が細分化されアパートやマンション建設が盛んで、人口流入が多く、外人も多く、隣に住んでいる人の名前も分からない「東京砂漠」です。こんな状況を改善したいという思いで、「まちサロン」を作ることを考えました。名付けて「まちサロンおきやんち」（あだ名から命名）子供から老人までがふらりと立ち寄れるサロンを目指しています。90歳にして第三の人生の始まりです。



近代日本の文化的道標

服部 幸市

（四高26年度卒）

四高同窓会の皆様にはますますご壮健のこととお喜び申し上げます。

私共は戦後昭和21年4月に八光星の輝く県立二中、2本白線、短い足にゲートルを巻き、下駄履きに戦闘帽雑嚢を背に八光星の富田中学校一学年の懐かしい姿で入校し、南端の九鬼館に一年生の学びであった。75年前のある日の学生生活でありました。当時のクラブ活動はテニス部のラケット、サッカー部のシユ

ーズ、陸上競技部のスパイクは入部できませんが、私は無手勝流で私学生の大先輩美大出身の岡田喜男先生の新しい美術部に入部致しました。入部しての第一はぼろぼろの刃こぼれのノミの研ぎ仕上げを約半年が続きました。クロッキーやデザインと心勇んで入部致しました。これも入部一学生の精神修業でありました。富田中学校では年一回全校生徒が運動場で大先輩の校歌作詞



黒松秀志先生のこと

重盛 千香

（四高58年度卒）

小学時代の晴れた日曜の午後、2人の妹とともに母の運転するプリンスに乗り、れんげ草で一面ピンクになった田んぼの松本街道をぬけ、伊勢松本駅近くの黒松先生のアトリエへ向かった日の情景を思い出します。叔母（父の妹）の嫁ぎ先にあたり、絵画を習うご縁をいただいたのです。

先生は、昭和5年に官立東京美術学校（現・東京藝術大学）を卒業、三重県立富田中学（現・四日市高等学校）美術教員として赴任、第10回、11回、13回帝展、第27回日展の洋画部門で入選、昭和59年に四日市市文化功労章を受章される偉人、とも知らず、子供の私は、本当のおじ

家佐々木信綱先生、日本文芸家協会会長の丹羽文雄先生、当時花形売れっ子の田村泰次郎先生の訓話を拝聴した事は私共は日本文学の道標、拝聴した青春時代の懐かしい一ページでした。私も五拾を要し宝美術館を開催し、丹羽文雄先生の原稿やら田村先生の初版本やデザイン等、皆様と集魂で想い出話に文学史・政治史に時を忘れ人生の指針と道標として…。

最後に四高同窓会会員の益々のご発展とご健勝を祈念し、想い出の青春時代を楽しみながら母校のご発展をお願い申し上げます。

旅行をされ、鮮やかで色彩豊かな風景の油絵作品を精力的に制作、毎年の個展では父が多数作品を収集しておりました。

この度、藤沢市西脇基夫さまより、同窓会館へ寄贈された絵は地元の風景で、「三滝川の冬風景」は、凍てつく三滝川の遠景に雪の鈴鹿山系、また、梅園越しの四日市のコンビナートの風景は、発展的な臨海を早春の満開の梅と共に描かれ、望郷の絵となったことでしょうか。

先生は、作品を多くの人に見てもらいたいと願い、平成9年に四日市市文化会館で展覧会を開催し、平成11年、93才で亡くなりました。父の遺品となった先生の四季折々の作品は、当方のクリニックへ来られた方の目を楽しませ、心を癒し、今もなお生き続けています。



鈴木俊二先生を 偲んで

横井健司

(四高61年度卒)

四日市高校に入学して最初の美術の授業が鈴木先生との出会いでした。先生は「踏切の音」について話されていたと記憶しています。変わったことを言うなあと頬杖をついてぼんやり聞いていた私は、その場で怒鳴られました。怒られながら私が考えていたことは、「すでに提出してしまっていた美術部への入部届をどうにかなかったことにできないか」ということでした。結局入部届はどうにもならず、その後も何度も怒られることになりました。鈴木先生に最も怒られた美術部員であると自負しています。同時にそれは最もご心配をいただき、最もお世話

になった美術部員でもありません。大学1年生時には、シルクロードへのスケッチ旅行に同行させていただきました。砂漠の気候と羊の油にへばっている私に、「そんなひ弱でどうするんや!」とご指導いただきました。大学卒業後には非常勤講師として母校の教壇に立つ機会もいただきました。勤務初日に「教壇に立つ者としてそれでいいのか」と問われ、そのまま理髪店に直行しました。新採教員となった1年間は指導教官として授業を見ていただき、「雰囲気は流されるな!信念をもって授業しとるか!」と繰り返し問われました。毎年年末には美術部思

い出の地、大王町波切モヘジ屋で一緒に鍋を囲み、年始には美術部OB会にもお付き合いました。お前はとうとう宿題もいたできなかった。鈴木先生から教わったことを一言で表すなら、「ごまかさないこと」です。いい加減な私の「一応」「なんとなく」「とりあえず」な言動を、その都度厳しくご指摘いただきました。「ペインティングナイフでごまかすな」、「本当に自分の目で確かめたのか」、「だれに向かって授業しとるんや」、その一つ一つが今の私をつくっています。出会ってから37年間、厳しくも温かいエールを送り続けてくださった先生、本当にありがとうございました。



繫

安田 あおい

(四高H30年度卒)

母校である四日市高校での教育実習を終え、早いもので半年が経ちました。卒業してから4年が経っても、校舎や富田の風景、窓から吹く風のおいしさのままで、タイムスリップしたような不思議な気持ちを抱きながら、刺激的で学びのある2週間を過ごすことができました。お忙しい中、日々指導してくださった先生方や、自身の授業では、拙い授業にも関わらず、真摯に伝えてくれた生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。私の将来の夢は、教員です。その理由を一言で表すなら、「学校が好きだから」です。私が考える学校の好きどころ

は、教室に行けば当たり前のように自分の席があり、同じように部活や学年にも自分の居場所があるところだと思います。さらに、偶然同じクラスになった40人と、毎日共に学び、行事を乗り越え、放課後には掃除をして、「一期一会の出会いと、一年間で築く繋がり」の尊さを、卒業した今だからこそより強く感じています。教員という立場に変わっても、学校という好きな場所でも、好きな理科を学び、たくさんの人と関わり成長できることがとても幸せです。私にとって、部活動として現在まで続けている吹奏楽も、人との繋がりが生まれれる喜びや

感動に気付かせてくれる一つであると思います。一人だと一つの音しか奏でられませんが、違う楽器の、違う楽譜を吹いているみんながいれば、瞬間に音楽になる。お互いの「息の音」を聞き合って、一人ひとりの音が重なり、感情や情景を豊かに表現していく。そんな瞬間が心から愛おしく大切に、気付けば10年も、吹奏楽から離れられないでいるのだからうなと思えます。私は4月から、三重県に戻り教員として働きます。四高生の皆さんへ。かけがえのない毎日をどうか大切に味わって、培った経験が皆さんの未来をより輝かせるものになりますように。全世界にいらつしやる先輩方や同期の皆さんへ。未熟な私ですが、これからもどうかよろしくお願ひします。



34年目の振り返り

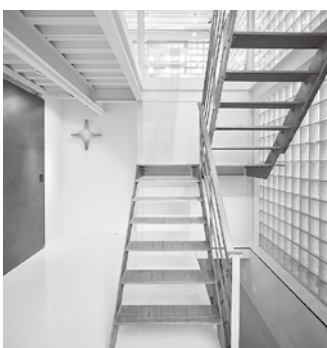
石井義樹

(四高63年度卒)

皆さんの夢は何ですか?もしかしたら夢を持っていない方もいるのかも知れません。昨今、夢は持ちにくい時代だと言われています。私も高校時代は自分の将来の夢というのはおぼろげで、卒業後にだんだんとはつきりしてきた、と記憶しています。私の夢は映画や広告の監督になることでした。その夢の一部は違った形で叶っています。私は1989年に四高を卒業し、大学はいくつか受験しましたが何をしたいかという事も決めないまま大学を受験。どこに行きたいか決められず、浪人しました。浪人中は自分の将来を考える時間が出来、自分のやりたいことが少しずつ見えてきました。当時、父親が仕事でアメリカテキサス州ヒューストンに赴任していたので、無理に父にお願いし

て映像の勉強をするために海外留学をさせてもらいました。当時は円高で1ドル90円程度の時代。現地では卒業したら大学に入るの現地の語学学校に入り、不得意だった英語を毎日寝る時間以外はすべての時間を費やして勉強しました。なんとか卒業し大学に入学。映像の勉強ができる、コミュニケーション学部でラジオテレビ学科に入りました。入ってからは当たり前ですが、すべての授業は英語ですが、耳で聞かなくても、教科書も本当に難しく、毎日予習復習で15時間以上勉強してました。留学する時、必ず卒業するということが親との約束だったので、4年3ヶ月で無事に卒業し帰国しました。帰国後は、東京に出てテレビ番組の制作会社

を経由して、今の広告映像の仕事に就きました。その後2004年に今の会社を設立。キラメキと名付けました。その頃、自分には監督になる才能は無いと判断し、世界中の才能溢れる監督と仕事を側面の立場になろうと、プロデューサーになりました。設立当初は大変な時もありましたが、今もやりたい仕事は出来ていると思います。四日市高等学校を卒業してから34年。当時人生の方向性に悩んでいた高校生の自分にとって34年後の今の自分はどうか見えているのだろうか、と今回寄稿させて頂く上でその事を思い出す良い機会になりました。



キラメキのオフィスのエントランス



最終学歴は四高通信卒

徳井 満

(通信制)

私が四高通信を卒業したのは四高通信最後の年でした。元は60年度生でしたが大学進学のため3年で中退しており、高卒でないことに多少引掛かりを感じていました。そんな時にニュースで「四高通信廃止」と聞き3年間で取得した単位がかなりあったはずと問い合わせしてみました。すると嬉しいことに復学可能と知り早速復学の手続きを取りました。登校すると同学年だった2人に会い、3人揃って卒業しようと言いましたが、残念ながら1人は脱落しました。

私は60年度生の時から大学進学を目指していましたが、2年で旧大検に合格しましたが、さすがに昼の大学は難しく、もう1

年勉強して三重大学生物資源学部合格できました。子供の頃から好きだった生物学を十分に学べると楽しみに入学し、そこそあつという間の4年間で勉強したいという気持ちが強く、実験しながら大学院進学の準備を進め無事三重大大学院で修了しました(生物資源学修士)。それに教育にも関心があった為教職も取り教員免許も取得しました。しかし、私の専門からの博士課程進学は難しく研究職は諦めました。それから予備校講師やプロの家庭教師などしつつ長い休みを作っては主に東南アジアを中心に旅を続け

最後にりましたが、勉強は何時でもどこでもできます。皆様の御活躍を願っております。

リレー随想（第26回）

衰弱する日本

元 富士電機(株) 副社長
元 四日市大学 教授



国保元愷（四高26年度卒）

私は1934年3月1日津市に生まれた。この日は日本陸軍が占領していた中国に、満州国を建国した日でもある。昭和の初めまで日本は軍艦を米英から輸入し、完成後全乗組員が生産国を訪問、滞在して船の運用方法を学び、日本へ持ち帰るのが常で、海軍軍人は国際人であった。一方陸軍は中国以外の外国を知らない国粋集団であり、彼らが満州国を作り1941年12月米英蘭との無謀な戦争を始めた。42年半ば米海軍が電波探知機をMidwayで実用化、勝負は終わった。43年4月海軍の総帥山本五十六は高松宮を残して旗艦を離れ、自殺のような飛行の末戦死したが、陸軍は和平を提案せず、45年8月原爆投下を招いた。43万人の進駐軍が来たが、多くの米国兵が2桁の暗算が出来ない。しかし米国の戦争は、国防省の優秀なSuper Elite 集団が陸海空軍を厳格に管理し、進めていた。今でも日本の役所、企業には猛烈な学習によって得た該博な知識と論理的思考により政策や経営手法を立案できるグループは多くない。東大法学部で岸信介と我妻榮は1917年89.1点という奇しくも同点の成績を得た。40年後岸は総理、我妻は日本を代表する民法学者となり、朝日新聞で岸に安保闘争の政界からの引退を勧めた。岸は畏友の意見を入れ総辞職した。

この骨太なSuper Elite の人間関係が日本には少ない。しかし日本の技術は朝鮮戦争特需もあり急激に回復、ノーベル賞受章者は25人、22人が理系で、製造業の年間貿易黒字は10兆円を超える。

ところが1970年頃から、文部省、日教組が日本の教育は詰め込み教育であり、ゆとりが無いので独創的な人が育成されないと言い出した。逆である。人が考える時、脳の神経細胞がシナプスと呼ぶ電子回路で繋がれ、Ideaを出す。懸命に考えるほど接続は増えるが、無接点で脳は大きくならない。私も何度も経験したが多くの落胆と、少ないが闇夜で稲妻が閃くような、嬉しい成功を求めて技術者は働く。

この経験を持たない、ゆとりある集団の退職まで、日本は衰弱を続けるのかも知れない。教育だけではない。漫画、アニメ、テレビなどの映像情報だけで、文字離れの日本人は考えない人種に変わって来た。

17世紀初頭Shakespeare は中世の伝説を改作し、道徳的、近代的な考える人Hamlet を創作した。彼の有名なセリフ「To be（現状是認）、or not to be（現状否認）、that is the question.」は、ゆとりの日本がどんな「not to be」を目指すかの決断を求める。1805年、Napoleon の上陸を防ぎ、大英帝国は250年の黄金時代を謳歌した。

お悼み



小菅弘正氏

（富中42回卒）
令和4年9月ご逝去

昭和55年より平成11年にかけて第3代同窓会長として同窓会を導いてくださいました小菅弘正氏が、令和4年9月18日94歳にて永眠されました。富中ご出身の氏は常に地域経済を牽引し続け、多大な功績を残されています。同窓会活動にも永年ご貢献くださり、母校創立100周年の記念事業を成功裏におさめられ、後年は顧問として後進を見守り続けてくださっていました。心よりお礼申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



鈴木田俊二氏

（四高S28年度卒）
令和4年5月ご逝去

母校教員時代より生徒への指導の傍ら会計・書記として同窓会活動に関わってくださった鈴木田俊二氏は、退職後は副会長に就任、先頭に立って同窓会活動を活性化しようと努めてくださいました。顧問に退かれて以降も同窓会館の維持管理や役員の職責全うに向けて目を光らせ続けてくださっていました。令和4年度総会直前の5月27日、87年の生涯を閉じられました。教員として、また先輩として我々に伝えてくださったものは、今も同窓生の心の中にしっかりと刻まれています。どうぞ寧らかに眠りください。

高羅英彦氏

（四高S33年度卒）
令和4年12月ご逝去

高羅英彦氏は永年会計として同窓会活動の要役を務めてくださっておりましたが、令和4年12月24日81歳にてお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

会費納入のお願い

同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願いを申し上げます。

◆納入金額
終身会費 2万円
毎年納入の場合 年会費 1千円

◆納入方法
①郵便振替
口座番号 008201816367
三重県立四日市高校同窓会

※専用の振込用紙がありますので
ご連絡下されば送付いたします。

②現金書留
会館迄ご送金下さい。

《お問い合わせは同窓会館まで》
059-36513631
sikokai@m2.city-net.jp

編集後記

同窓会報80号をご覧いただき、ありがとうございます。会報発行の時期がくると、春が近づいてきたと感じます。まだまだ寒い日が続きます。前回の十四日に咲く満開の桜を見るのが楽しみです。（前田）



会報編集のノウハウを手ほどきくださった師を昨年亡くしました。なかなかOKを貰えず、厳しかった。しかし数年前、自由に使ったよいと手渡してくださった何枚かのカット。今年もそれをお守りに励みましたが、まだ駄目出しの音が聞こえてきそうでドキドキします。（小林）

学園だより



一期一会

3年3組 竹本好花

私たちの高校生活はコロナ禍とともに始まりました。オンライン授業や、行事の規模縮小・中止で不安が続く一方で、人との関わりの大切さを実感することがたくさんありました。卒業する今、「人との出会い」の喜びをひしひしと感じます。

高校に入学し、個性豊かな仲間と出会いました。勉強や部活では、ライバルとして切磋琢磨し、お互いを高め合ってきました。尊敬できる仲間を見て、自分も頑張ろう、と何度思ったことでしょうか。また、将来の夢や他愛もない話で盛り上がる日々は、私の中で大きな心の支えでした。最高の仲間に出会っていると幾度となく感じ、みんなとたくさんの時間を一緒に過ごせたことが私の1番の誇りです。

また、先生方はとても面白いです。専門科目への愛が溢れ、苦手な教科でさえ興味をそそられてしまい、自分の可能性を多方面に広げていただきました。将来何になりたいか何も決まっていなかった私は、先生方と話をしているうちにいつしか先生に憧れを抱き始め、「高校の先生になりたい」と思うようになりました。

「1度の人生で出会うことのできる人の数は決まっている」という言葉を聞いたことがあります。この言葉が本当ならば、私は四日市高校に入学して本当に良かったと思います。でなければこのような素敵な方々と出会うことができなかったのですから。今までの出会い、これからの出会いに感謝し、新たな一歩を踏み出します。



インターハイに出場して

2年8組 木村好花

私たち山岳部女子4名は、2022年8月5日から8月9日に香川県まんのう町で行われた、第66回全国高等学校登山大会に出場しました。大会では、気象、救急、自然観察、天気図という4つのテストを4人が1つずつ担当する知識審査や、テントを立てる様子とその仕上がりが問われる設営審査、登山に必要な物を持っているか調べられる装備審査、登山行動中、地図上の現在地を問われる読図審査、制限時間内にコースを歩き切る体力審査などを行い、総合点を競います。

初めてのインターハイ、しかも5日間に及ぶ長期戦ということで、大会前は不安に感じていましたが、いざ始まるとあっという間に時間が過ぎていきました。開会式での緊張と高揚感、知識審査後にミスに気づき泣きそうになったこと、登山行動中のあと一歩の苦しさ、閉会式での寂しさや達成感……。どんな瞬間も新鮮で、出場できた喜びに溢れていました。メンバーとともに笑ったことも、喧嘩したことも、泣いたことも、何にも替えられない思い出となって私のなかで輝いています。

思うような結果とはなりませんが、今大会での収穫を今後の部活動に精一杯生かし、貴重な経験を後輩に伝えていきたいと思います。

最後に、大会運営に関わってくださった多くの方々、夜遅くまで準備して下さった先生、そして大会メンバーのためにたくさん協力してくれた山岳部の皆に心からの感謝を伝えたいです。ありがとうございました。



中京大中京高校野球部と交流しました

2年8組 窪亮太

四日市高校野球部主将の窪亮太です。昨年、私たち四日市高校野球部は中京大学附属中京高等学校(以下、中京大中京高校)野球部とメモリアルゲーム(梅村学園創立100周年記念企画)をさせていただきました。四日市高校野球部は全国優勝した昭和30年に準決勝で前身の中京商業高校と対戦しています。今回、私たちが中京大中京高校の方々との交流を持つことができたのは、四日市高校野球部の先輩方のおかげに他なりません。私たち四日市高校野球部部員一同はこの貴重な機会を励みに、甲子園出場、そして再び中京大中京高校と一戦交えることを目標に日々の練習に取り組んでいきます。四日市高校野球部の先輩方に喜んでいただけるように勝ち進んでいきます。



SSH国内研修(沖縄)報告

2年7組 山田明依

I made the presentation about "observation of ants behavior" at OIST. OIST means "Okinawa Institute of Science and Technology" and we can see a lot of great scientists from all over the world there.



I had two experiments got some interesting results. Especially I'm interested in "the law of worker ants". It is the law that 20% of worker ants work positively, 60% work normally, 20% work passively so I bred ants and observed differences in the degree of working. Also, I did another experiment about ants and stimulus.

After that, I got some questions about presentation. One of them were in English, so I was nervous that whether I could understand but I managed to answer. I was asked about what kind of food the ants usually have and introduced some food they like. Of course, I found it out during my experiments. I was very happy to get such a chance and it was a wonderful experience for me.

母校近影



富中より引き継いだ門柱



校門より校舎を臨む



登校風景



田村初代校長像



駅から見える同窓会寄贈の懸垂幕



コロナ対策



懐かしいプレートは
今も健在



通信制は永遠に



今どきの授業は…



体育館エントランス

科学の祭典 2023年1月28日（校内）

